

1 単元名 ちがうことばで表すと

2 単元について

単元	○作品の伝えたいことをとらえ、それに合うように自分なりに別のことば・表現で表す。
目標	○作品の伝えたいことを意識しながら、ことばや表現を読み・聴き合い、批評し合う。

本校の低学年教育では、サークル対話を生活の中心におき、子どもたちの対話とそこから始まる学びや生活、関係性を育んできた。サークル対話は全員で円になって座り、発表したい子が生活の中で見つけたことや感じたこと、興味をもったことを伝え、発表後は分からなかったことやもっと知りたいことを質問したり発表に関係する聴き手の経験が話されたりする。その後、話題をふり返りながら気に入った発表を選び、その内容を板書して皆で推敲を行っている(共同推敲)。この推敲して作りあげた文章をノートに視写し、それを家庭で音読する学習材にしている。このように、サークル対話はてつがくにつながるだけでなく、国語の話す・聞く、書く・読むの学びにもなっている。特に共同推敲では、話しことばで自然に聞けたことが、書きことばにするとおかしいと感じたり、何気なく使っていたことばに引っかかり、他の言い方がないかと自分たちの知識を総動員して考えたりする。さらに言えば、ことばの順序や文章構成も意識して、より良い文章にする。このような、子どもたちがもっていることばの知識や言語獲得能力を生かした主体的な学びをどう引き取りつなげていくかが、単元の構想の出発点である。

ところが、この学年は1年生3学期からコロナ禍に入り、机も前向きで、サークル対話はおろか互いの顔を見合いながらの対話もできずに中学年まで過ごしてきた。私は、3年生から学年担任として国語を受けもち、試行錯誤しながら共同推敲など低学年のことばの学びをどのようにボトムアップするか考えてきた。共同推敲につながる学びの一つは、3・4年生で俳句・川柳・短歌を作り、それに合う絵を描く、またPCで写真を撮って仕上げ、作品を批評し合った。4年時は「これって何」という単元を設定し、教室や身の回りにあるもの、例えば箒であれば、箒を使わずに箒を説明した文をクラスで共同推敲して仕上げ、それを他クラスで読んで当ててもらった上で、文章の良かった所とアドバイスをもらい合う学びを行った。この発展として、5年のクラス替え時にクラスで誰か一人を決め、その子に気づかれないように情報を集め、他己紹介を作成しみんな当て合う「これって誰?」という学習を行った。

このように共同推敲で大切にしてきた、自分たちのことばの知識を再構成すること、あることばや表現を別の表現でも考えてみること、ことばや表現に引っかかりその違いを考えることなど、ことばへの「感度」を育むことを中心に学習をつくってきた。本単元はその延長線上にある学習で、ある日YouTubeで見た動画がきっかけだった。「It's a beautiful day and I can't see it」という動画で、端的に言うと、ことばを言い換えると伝わり方が変わることを伝える動画である。本単元では、これを視聴した後、街や校内にあるポスターや新聞の広告などから、気に入ったもの、こう変えたいと思うものを探して皆に紹介する学習を構想した。子どもたちは、普段電車やバスを使っている子が多いため、多くの広告を目にする。それらを改めてことばとして見直し考えることを通して、ことばを育みたいと考えている。

3 学習指導計画(8時間/6時間目)

- (1) 「it's a beautiful day and I can't see it」を視聴し、学習内容をつかむ。
- (2) (少し間隔をあげ、他の単元と並行しながら)自分を取り上げたいことば・表現を見つける。
- (3) 見つけたポスターのことばや表現について、気に入ったもの、修正したいもの決めて取り組む。
- (4) 各自が修正したポスターをファミリーで見合ってアドバイスし、全体でも発表をする(本時)。

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・作品の伝えたいことを意識しながら、自分なりによりよいことばや表現を考える。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 ファミリーで、互いのポスターを紹介し、アドバイスをしあう ・気に入ったもの ・自分で言葉を変えたもの	○教師も子どもも発表を楽しむ。 ・ポスターの伝えたいことと話し手の伝えたいことをつかみながら聴き、応答する。 ・子どものことばがとがったものにならないよう気を配る。 ・必要に応じて、分からないことばなどの支援をする。
2 ファミリーで一つ作品をきめ、クラス全体で紹介する。紹介したものについて、感想やアドバイスがあれば、伝え合う。	○発表者の意図に寄り添いながらアドバイスをする。 ・(特に全体では)推敲するポイントを整理しながら進める。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

国語で育んできたことばの感度をどう日常や社会とつなげていくか。